

核兵器禁止条約の採択を心から歓迎する

2017年7月10日
核戦争に反対する医師の会

2017年7月7日、ニューヨークの国連本部で開催された条約交渉会議で、核兵器禁止条約が圧倒的多数の交渉参加国の賛成で採択された。全国の医師、歯科医師、医学者、医学生が参加する反核医師の会は、この採択を心から歓迎する。

この条約は、核兵器の使用、開発、実験、製造、取得、保有、貯蔵、移転などを禁止し、さらに核兵器による威嚇なども禁止するものである。この条約は、核兵器が国際法上始めて非合法となる画期的な条約となる。この条約交渉には124カ国が参加し、122カ国が賛成した。

我々の先輩たちは、広島・長崎に原爆が投下された直後より、自ら傷つきながら献身的に犠牲者の治療にあたった。さらに、全国からも多くの医師たちが支援に駆け付けた。しかし、余りにも多くの犠牲者、そして破壊された医療施設、役に立たない医療機器、皆無に等しい医療器材など、大量破壊兵器の前に医療は余りにも無力だった。そして、その後、医師たちは放射線の後障碍に苦しむ人々に寄り添い治療したが、いのちを救うことができなかった。治療することができないならば予防すること、このことが我々の使命と考え、30年前の1987年8月に反核医師の会を結成して、核兵器の廃絶に向けて運動してきた。

この条約交渉会議に日本国政府は最初の第1日目のみ参加し、交渉会議に参加しないことを表明、その後の会議をボイコットした。唯一の戦争による被爆国の政府としてあるまじき行為であり強く抗議する。しかし、ヒロシマ、ナガサキのヒバクシャを始め、核兵器の廃絶を願う日本のNGOが、被爆国としてこの条約交渉会議に参加し、核兵器禁止条約の交渉成立を訴えた。

我々は、この条約が多く国連加盟国によって批准され条約として発行することを希望する。さらに日本国政府も、ヒバクシャや圧倒的な日本国民の願いを受け止めこの条約を批准することを強く要求する。

我々は、今後も、地球上から核兵器が廃絶されるまで、核のない世界をめざす多くの団体、人々とともに、さらに行動することを表明する。